

脳器質障害、田中さんの油絵60点

美術館建設に 演奏会で応援

脳器質に障害を抱えつつ油絵を発表し、小学校の教科書にも作品が採用された調布市小島町1丁目の田中瑞木さん(31)の美術館建設をめざし、住民らが11月3日、市内の電気通信大講堂でチャリティ演奏会を開く。歌手庄野真代さんが出演する。地元で7年後、常設美術館を建て、だれでも制作に使えて憩える場も設ける計画だ。

地元住民らが企画

調布で来月



瑞木さんは幼いころの話ができず、ずっと走り回り続ける行動障害があった。6歳ごろから絵に興味を持ち、毎日1000枚の画用紙に描くほど集中した。小学6年のとき、受け入れてくれた絵画教室で細い筆を使う油絵を教えられ、次第に50号、100号といった大きな作品を描くようになった。

教科書に採用

自宅に配達に来た郵便物店主に勧められ、00年、市内の画廊で初の個展を開催し、都内や茨城、富山、新潟県内などでも開いた。06年に障害者総合美術展で最優秀賞を受けたほか、01年、障害者の詩に著名人が絵をつけて紹介するNHKのハート

制作する田中瑞木さん
調布市内で50号の作品「秋のサファリアパーク」



展の作者に選ばれた。この年、小学3・4年の図画工作の教科書に作品が使われた。

瑞木さんは週4日、グループホームで暮らす。平日は福祉作業所で箱折りや刺繍の仕事に携わり、絵は週末に描く。工賃でネコに餌を買い、ホームの仲間の世話をやぐ。そんな優しさが作品から伝わってくる。

「美術館を建てよう」といふ声に関係者の間で高まり、実現をめざして動き出した。とりあえず11月、「まちかど美術館」として地元の商店や歯科医院などで巡回展示を始める。

父の電気通信大助教、阿部公輔さん(58)ら

が昨年10月、NPO法人「海から海へ」を設立した。「障害者は人のつながりを促す性質がある」と思う。芸術や感動を通じて、人と人のつながりを広げたい。

庄野さん出演

美術館建設の第一歩として、有志が演奏会を企画し、実行委員会を結成した。委員長の阿部店経、田中和己さん(49)の兄、草さんは、「飛んでイスタンブール」のヒットで知られる庄野さんの

バンドのギター奏者だ。出演交渉したところ、庄野さんの快諾を得た。商工会の仲間や学生、歯科医らが加わる。電通大も協力し、講堂を借りられることになった。

午後4時半開演。入場料3千円、小中学生1500円。就学前の子の託児と障害者の入場料は無料だが、事前申し込みが必要。

問い合わせは実行委事務局の「うつわ和季」(04244・82・24775)へ。